

令和5年度第1回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和5年7月13日（木）午後3時から午後4時30分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長、専門員兼地域支援係長、担当主事補
場所	文化センター文化交流館1階 11会議室
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員の紹介</li> </ul> <p>議事に入る前に事務局より昨年度行われた協議体の振り返り、また今年度の協議体での検討事項について再確認を行った。</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和4年度生活支援コーディネーター活動報告 【資料1】を基に生活支援コーディネーターより説明。 〔第1層生活支援コーディネーターより説明〕</p> <p>新たな取り組みとして令和4年5月から地域福祉パートナーシップ事業者認定制度を策定した。民間企業と協力して、企業の地域貢献を促した。令和5年3月末時点で、5社と協定を結んでいる。また、ふくしボランティアフェスティバルでは地域貢献に取り組んでいる企業を紹介し、地域住民への周知を図っている。また、もーやっこネットワークなどでも広く周知している。</p> <p>よりどころは48か所あり、歩いていける居場所づくりを目指している。各団体との情報共有にも努め、よりどころ交流会を開催し、担い手のフォローとしての役割を担った。地域の支え合い活動に結び付けることができた。</p> <p>〔第2層生活支援コーディネーターより説明〕</p> <p>コロナ禍でよりどころの運営に苦労している人が多かった。そういった方の相談対応に努めた。</p> <p>地域ケア会議への地域包括支援センターの負担感が増してきている。住民への説明に同行するなど、地域ケア会議の円滑な運営に協力した。また、その場での意見に対して生活支援コーディネーターとしての関わりを検討した。</p> <p>コロナの影響が小さくなってきた4月頃からボランティアやりたい人が増えてきているため、マッチングに取り組んでいきたい。</p> <p>地域福祉パートナーシップ事業者認定制度は昨年度末から2団体増えて7団体に登録してもらっている。地域連携を今後も進めていきたい。</p> <p>〔名古屋学院大学教授より質問〕</p> <p>パートナーシップ認定している企業とのマッチングがスムーズに進んでいる。そういった企業を見つけるための工夫はあるのか。</p> <p>〔第1層生活支援コーディネーターより回答〕</p> <p>パートナーシップ協定の第1号として大橋運輸を認定した。大橋運輸のネットワ</p>

ークで広がっていったという経緯がある。また、瀬戸市社会福祉協議会のインスタグラムにて取り組みを積極的にPRしている。企業のPRの仕方を学んでおり、お互いのメリットを活かしている。

〔地区社協会長連絡会より意見〕

よりどころ交流会で様々な問題が出てきたと思う。地区社協でも課題を抱えていることが多いため、交流会のまとめを地区社協にも提供してくれるとありがたい。

〔第2層生活支援コーディネーターより回答〕

抱えている悩みなどは色々とお話があったため、後日提供させていただく。

(2) 令和4年度瀬戸市施策の報告

【資料2】を基に事務局より説明。

移動支援事業について、昨年度は東明地区と道泉地区で行った。参加者が定員の半数になることもあったが、参加者からは高い満足度を得られた。男性の参加者が少ないことや、参加者の固定化など、課題はあるが、それらの課題を解決できるように今年度の事業に取り組んでいく。

そのほかの事業に関しては、コロナの影響で少なくなっていた参加者も徐々に元の水準まで回復しつつある。

〔基幹型地域包括支援センターより質問〕

大人の本気ダンスプロジェクトでは、伝道師が増加しているが、今後の伝道師の活動としてはどういったものを考えているか。

〔事務局より回答〕

せとらカフェなどの地域の活動に出向いて「瀬戸の情熱」を広めていくことを考えている。また、伝道師の人数が増えてきているため、市主催での講座ではなく、伝道師主催で行う、伝道師のための講座の開催も検討している。

〔瀬戸市社会福祉協議会より質問〕

移動支援事業の広報方法と対象者年齢について知りたい。また、定員が9人となっているが、どのように送迎しているのか。

〔事務局より回答〕

チラシを作成し、それぞれの連区に配布している。対象者は65歳以上の高齢者で、市内のタクシー会社に依頼してジャンボタクシーをお借りしている。

〔名古屋学院大学教授より意見〕

対象の地区に住んでいても、移動支援事業について知らない人も多いと聞く。参加者からの口コミで広まりつつあるが、周知方法も検討していく必要がある。

(3) 令和5年度検討事項について

【資料3】について生活支援コーディネーターより説明。

地域の居場所の必要性について、生活支援コーディネーターの研修の際にいただ

いた資料を加工して作成した。いつまでも元気であるために大事なことは、友人とのお茶のみなどがあるが、それは地域のサロンに入っていることである。社会とのつながりを失うことがフレイルへの第一歩であるという考え方がある。

居場所づくりのきっかけも交流会で聞いたが、様々な熱い思いをもって活動してくれていることが分かった。

【資料4、5】について事務局より説明。

資料4は、高齢者の計画を策定する際に使ったニーズ調査であり、調査では地域の活動に「ぜひ参加したい」「参加してもよい」と思っている高齢者が約半数いるのに対し、実際に参加しているのはコロナ前でも10%以下であることが分かった。高齢者に参加してもらうための工夫を委員の皆様にお伺いしたい。

資料5については、厚生労働省が全国の市町村を対象に集計したデータである。瀬戸市は社会福祉協議会が補助している「よりどころ」の数を足しても全国平均と比べて通いの場が約半数であり、居場所が不足していることが分かった。また、瀬戸市と同規模でありながら居場所の数が4倍近くある半田市を調査したところ、市独自事業で最大10万円ほどの補助金を出していることを聞き取った。

〔基幹型地域包括支援センターより意見〕

社会性をもつことが大切で、社会性を失うことはたばこより体に悪いと言われることもある。社会資源に関する情報を得るのは難しく、情報を伝達する人が重要である。出張！せとらカフェでは、参加者数に大きなばらつきがある。アンケート調査では、地域のキーマンになる人がいると参加者が増加する傾向があることが分かった。

〔委員長より意見〕

アメリカで有名なカワチチローという研究者がいる。カワチ氏は、愛知県で地域のつながりの尺度と健康状態を追跡調査した。調査では、アメリカと比べて日本の健康パフォーマンスが上回っていることが分かり、その要因としては地域とのつながりが他国に比べて強いことが挙げられる。他国では、治安が悪くひったくり等のリスクがあり、高齢者が外で出るのが嫌う傾向にある。しかし、日本でも地域のつながりが薄くなってきていることが指摘されている。社会的つながりがなくなれば、日本は長寿大国ではなくなるかもしれない。実際に平均寿命は延びているが、健康寿命はそこまで伸びていない。

〔地区社協会長連絡会より意見〕

老人会も居場所の数に含まれると思う。認知症の高齢者と一緒にグランドゴルフをやっている事例も出ている。夏の暑い時期は、ボッチャをするなど工夫して取り組んでいる。ボッチャを全市的に推していくとよいのではないかな。

〔第2層生活支援コーディネーターより意見〕

ボッチャの用具は社会福祉協議会で貸し出しているが、リクエストが多く毎回貸し出せる状況ではなくなっている。

〔瀬戸市民生委員児童委員協議会より意見〕

テレビで見たのだが、介護が必要になって動けない人が買い物支援で来てくれるヘルパーと話すことを楽しみにしている姿があった。民生委員として、高齢者の自宅を訪問して資料を渡すときに、お話をするといいと思った。動けない人には、こちらから出向いてあげるとよい。

〔基幹型地域包括支援センターより意見〕

居場所を作り出すのは難しいと思うが、私の近所では高齢者が自発的に集まっておしゃべりをしている。座れるところがあると、勝手に集まるかもしれない。

居場所まで来られない人へのアプローチはチームオレンジの活動で対応できるかもしれない。

〔第2層生活支援コーディネーターより意見〕

空き家を活用したサロンの相談があった。サロンはどこでもやれるため、生活支援コーディネーターに相談してほしい。

地域で卓球をしたいという相談があったが、そういった個別の具体的な相談も実現できるように協力していくため、生活支援コーディネーターに相談してほしい。

〔瀬戸介護事業連絡協議会より意見〕

潜在的にはコロナの影響を受けて介護度が上がった高齢者は多いのではないか。先日の研修で、高齢者にとって大切な「きょうよう」と「きょういく」の話を聞いた。高齢者にとって、「今日、用」があること、「今日、行く」場所があることが大切である。これが生活にハリを持たせるヒントとなっている。

### 3 その他

事務局より今年度の会議の案内。第2回は10月下旬を予定。

### 4 閉会